

別府大学短期大学部

平成18年度第三者評価

機関別評価結果

平成19年3月 22 日

財団法人 短期大学基準協会

機関別評価結果

別府大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月25日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

実学的な教育目的・教育目標は明確である。教育目的・教育目標に沿った教育体系は整備されており、自ら掲げる教育理念の達成に向けて順調に進捗している。また、学内だけでなく、学外的にも大分県下の高等教育の中心的立場で教育目的・教育目標の見直しを図る努力も払われている。

食物栄養、初等教育、地域総合科学、保育の各科および専攻科が設置され、それぞれの教育目的・教育目標に基づき教育課程が体系的に編成され、総合短期大学として学生の多様なニーズに応えられる体制が整えられている。

多様な調査を行い、教育の効果を確認し、その結果を踏まえて改善に努力している姿勢がうかがえる。教育目標の達成については個人レベルでの指導も行い、学生の満足度に配慮するとともに資格・免許取得への取組みもなされている。

併設の別府大学との連携で留学生を支援する日本語教育や学生寮の確保が図られている。学習面においても組織的あるいは個人指導の徹底など様々な取組みと工夫がなされている。学生生活支援や進路支援についても組織と担当教員によって支援体制が整っている。

短期大学という限られた時間のなか、教育活動のほか研究活動も総じて活発に行われており、研究に係る経費も適切である。

地域文化の推進という役割を十分に意識し、「国際協力と地域貢献」の理念のもとに、各学科の特色をいかした社会的活動、ボランティア活動の取組みが体系的に行われている。国際交流活動も活発で、併設の別府大学と連携して、研修、短期留学などを積極的に行っている。

理事会、評議員会において決裁された法人業務の遂行、法に基づく公認会計士の監査、監事の法人業務および財務に関する監査など適切に行われている。理事会、教授会などの

決定事項の伝達も行われており、事務組織も教職員と事務職員との信頼関係のうえに成り立った協力体制が発揮されるよう努力している。また、検討課題として教員の任期制の導入や定年年齢の引き上げなどに伴う雇用など時代の流れに即した取組みも検討されている。

入学者を順調に確保しており、このことにより過去3年間にわたり資金収支、消費収支ともに安定して推移している。教育研究経費比率については、過去3年間とも適当である。支払資金も相当額確保できており、将来に備えた積立金および第2号基本金も充実している。

自己点検・評価活動は、平成13年度より「自己点検・評価委員会」を組織し、「自己点検・評価委員会規程」に基づきほぼ毎年自己点検・評価報告書を作成し、関係機関および教職員に配布している。さらに、この結果を活用して指導内容の改善、教員の研究活動への取組みなどの工夫を行い、発表し、相互に研鑽している。また、明らかになった問題点についても率直にみつめ、必要な方途を探る意欲が認められる。さらに、「ファカルティ・ディベロップメント（FD）研究会」では組織的な検討が行われている。

2. 優れていると判断される事項など

（1）優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 九州大分の地で昭和21年という時代背景の下、女子教育において唱えられた「人間が人間らしく生きるためには、まず自由でなければならない」という建学の精神は現代においてもなお求められるものである。この建学の精神に基づき、総合短期大学として学生の多様なニーズに応えていること、および入学時の保護者参加によるオリエンテーション、教職員の新任者研修などの取組みは評価される。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生のニーズを見極め、社会ニーズにも応えられるよう絶えず改善の努力がなされている。特に、食物栄養科では教養教育の中に国際理解の立場から台湾での海外研修を取入れたり、栄養士の資格取得を第一目標としながらも中学校教諭、フードスペシャリスト、司書教諭などの資格・免許も取得可能な課程としている。さらに調理技術確立のための「基礎調理」（一年入学時、集中講義）はユニークである。初等教育科ならびに保育科の「研究会活動」はゼミ形式で教員と学生の交流の場となっている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教育環境はよく整備され、メディアセンターの完成により一層の情報教育の充実が期待される。また、大分キャンパスの恵まれた自然環境と周囲の雰囲気にもマッチしたセ

ミナーハウスでの「研究会活動」は特筆に値する。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学生による授業アンケートの実施や、卒業生や就職先に対する教育効果の調査を行い、教育内容の改善に利用したり、短期大学独自の緊急時貸与金制度を設け、経済的理由による退学を防ぐよう努めたりしている点は優れた取組みである。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 就職希望者は高い比率で就職しており、その支援体制も整っている。食物栄養科では、2学年合同での研修会実施などにより学年間の意思疎通も図っている。地域総合科学科では入学後1人の学生に30分の個人指導を実施し進路指導、助言を行っている。特に初等教育科、保育科で活発に行われている「研究会活動」は優れた取組みである。

評価領域Ⅵ 研究

- 小学校教諭二種免許状取得済みの学生が、「教育マイスタープロジェクト」のもとで補助教員（AT）などとして研修を行うという画期的な取組みで、短期大学では唯一「大学・大学院における教員養成推進プログラム」に採択されたということは特筆に値する。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 「国際協力と地域貢献」の理念のもと、周辺地区の防犯パトロール、ごみ拾いという身近の社会活動をはじめ県主催の研修会などにも協力し、積極的に地域貢献を行っている。国際交流においても多くの学生が交流協定校と相互訪問を行うなど実績をあげている。また、高大連携など、ほかの教育機関との連携面での活発な社会貢献活動がなされている。

評価領域Ⅸ 財務

- 正味財産は増加し、将来予想される資金については、特定預金として積み立てられている。

（２）向上・充実のための課題

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館の開館時間および休暇中の開館方策については検討が望まれる。
- 食物栄養科の実験・実習室については、より学生の便益を図るため、建物、設備に努力されたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 成績評価については、学科間の共通基準の導入などの検討が望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 大分キャンパスでは通学バスの便数確保などについてさらなる充実が求められる。

（３）早急に改善を要すると判断される事項

なし